



## 明日の高島



旧高島郡 6 町村の合併により誕生し、初代市長に海東英和氏が就任されました。朽木の森林、マキノの里山、新旭のヨシ原など安曇川水系の多くの魅力的な自然の財産があります。しかし、これらの自然環境を保全しながらの地域づくりや産業振興は大変工夫のいるところです。

こういうことを踏まえて海東市長に「明日の高島」をお聞きしました。

本当に地方は豊かになったのか。いや、ある意味ではどんどん貧しくなっているのではないかと、現場での切迫感というものを感ずるわけですね。山も荒れているし、獣害もひどいし、琵琶湖に住んでいる生き物を指標にしてみると、かなり危機的な状況が進んでいるように思うし、それをよく考えてみると、全部自分らの暮らしがその結果をつくってきたと思うんです。できれば少し暮らしのベクトルを、地域が豊かになる方向に向きを変えることはできないか。そういうことから、新市のまちづくりのテーマを「環の郷」の実現としました。昔は地域の中のエネルギーをちゃんと使うことによって回っていたわけですからね。だから、エネルギーのつながりという環もつくりたいし、廃棄物を作らない環というものもつくりたいし…。

これは実験的にやっているんだけど、たとえば地域通貨みたいな、みんなの気持ちを、経済的な一元的な価値観を揺らすような思いを持ってみたいんです。わたしたちが暮らしとともに勝手に自然に手を入れていた仕組みを放棄してしまっただけか、何も考えんと手放してしまっただけか、経済性に合わないというだけで、それをどんどんとやめていったことを今取り戻そうと始めているわけですよ。また、県にはヨシ群落保全やプレジャーボート対策など、できれば現場、地域ルールを大事にしてほしいという話をお願いしています。

高島というのは511平方キロメートルと広い

し、生活圏としても結構閉じた形というか、一体化した部分があるし、資源も、例えば牛が2,000頭ぐらいいたり、田んぼが3万5,000反あったり、森林が350平方キロあるんですよ。これをそれぞれの方法論で生かす合えるようなことをしたいなと思

っていますけど、東京や都市を見て、無い物ねだりをしてきた精神文化から、自分たちの豊かさを「あるもの探し」しながらもう一度確かめて、それを都会の人と共有する中に、経済とか、発展とか、満足とか、

そういうものが生まれていくと思います。

高島はすごくポテンシャルがあるというか、持っている方によってはものすごい素晴らしいところになりそうですね。ところで市長は、旧新旭町針江の方だそうですが、針江には琵琶湖屈指のヨシ原があり、地元もヨシで潤った時期があったようです。

今お話したことからすれば、農業にせよ、ヨシ産業にせよ、それが生業（なりわい）として立つということが最も理想的なことなのですが、この生業が減ってきたのには1つ理由があるし、減び



針江のヨシ



ヨシ刈り

た道というのは文化財とか、伝統工芸みたいな形でないとなかなか成り立っていかないという現実もある。きれいな技術も入れたり、行政的な方法論も整えながら、何とかトータルとしての高島を守るといふことを求めているかと思うんです。

高島は自然に触れる部分を、例えば、修学旅行で高島に来てもらつとか、そういうことも含めて。ヨシ刈りのツアーが結構人気なんです。今森光彦(写真家)さんが案内して、ヨシ刈りをして、ここで一泊して、コイを刺身にしたり。琵琶湖ホテルさんと共催で、2泊3日で4万3,000円ですよ。あれがわんさか人が来はるんですね。びっくりです。

今までそういう発想はなかったですね。

だから、高島にとってはヨシ刈りというのはオプシオンなんです。雑木林、ヨシ群落、わき水、里山、朽木の山、棚田、いろいろあるので、そういう意味ではラインナップとして必ず並ぶようになってくると、ちょっと注目度も上がるやろつし、ヨシ焼きにカメラマンが300人ぐらい来はりますものね。「ヨシ焼きを見る」ことをJRTアイデア事業で考えているんです。ただ、その次につながる面白い話なんです。このあいだ大阪の菊作りの名人に話を聞いたんですわ。地域の自然を全部凝縮した、つまりその水域のあらゆるミネラルというか、それを含んだ腐葉土や土などが菊作りにええと。たとえば、ヨシ、コナラの落ち葉

の腐葉土、畑の豆殻、田んぼの土、山の土。そういうものを使うと素晴らしい菊が出来る。そういう千利休が完成した日本の美意識の最高峰である茶室。

結局、これは全部日本の自然が一体化している空間なんやな。朽木の木材、安曇川の竹、琵琶湖のヨシ、安曇川水系のすべてが、1つにぎゅっと集めた作品、商品。そういうものに流域の自然や宇宙を感じ、最高の価値を感じられたらええな。また、地元のヨシ業者から聞いた話なんです。で、「ヨシは皮をむかないと売れん」という常識を覆して、今まで捨てていたヨシの先のきれいなものを選び、「皮付き」という名前でも最高級の天井材として売って儲けた。こういうことがすごく大事やと私は思うんです。しかしヨシだけを考えているわけじゃなくて、すべて全部総合的に。わたしの知恵だけじゃなくて、こういう自然の素材を扱う方々が全部集まって何か作れると、いろんな素晴らしいものができるし、多くの生業が育つのではないかなと思ってるんです。

話違つんやけど、ヨシ群落の刈り取りでも、最初、一遍真ん中に丸く刈って、そこでみんな一杯飲んで、こういう話をして、楽しいことをしてから、次に全部刈るとか、してもええねんけど。

そうですね。中に入ったらあつたかいなと言つて。次、それ、市長やりましようか。

上を吹雪がぱーっと行っているのに、下は何かぬくつて…。(笑)

豊かな自然もあり、自然と共生する人の営みもあり、大きな夢の高島市に期待すること大です。